

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	里山公園化を目指した、無理のない持続可能な里山保全の仕組みと交流の場づくり
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 フォレスト工房もくり (事務局 TEL 070-4093-4322)
事業区分	⑤環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,667,329円 (うち支援金: 2,974,000円)

事業内容

里山公園化をめざすという、地区内外の人々が参画しやすい目標を掲げ、無理の無い里山保全の仕組みづくりと、特に外部の人の手を借りながら里山の再生をすすめることによる都市農村交流を推進していくことを目的として、

- a. 実力をつける田んぼづくり (棚田の保全)
 - b. 交流イベント、ワークショップの開催
 - c. 間伐材の利用促進
 - d. 活動拠点の整備
- の事業を行いました。



【刈払機 安全衛生教育 講習風景】

【目標・ねらい】

- ①里山の保全
- ②交流人口の増加
- ③間伐材の利用促進

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①里山の保全
耕作者が減り、荒廃がすすむ棚田を担当者を決めて保全に努めた。不耕作地の増加防止に寄与できた。
- ②交流人口の増加
棚田保全に関するイベント (田植え、草刈り、稲刈り)、刈払機の安全衛生教育 (1回)、奥信濃いやま里山暮らし研修 (春と秋に各1回) の計6回イベントを行い、地区内外から大勢の参加があり、交流できた。
- ③間伐材の利用促進
近隣の杉林を間伐し、その間伐材を使って製作したログファイヤーを市内の祭りやイベントに寄贈した。

※自己評価【 B 】

【理由】
ほぼ予定した通りに活動をすすめることができた。地域の活性化についても、当初のねらいに近いものとなった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回の事業で里山保全の仕組みができ、また活動拠点も整備することができたので、継続して里山保全や交流人口増加、間伐材の利用促進に係る活動を一層充実して行えると考えている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある